

● コロナ感染症増加傾向続く

■ 定点把握：

全国各地であらかじめ指定した医療機関から定期的に患者数を報告することを定点把握といいます。例えばある県の指定された 100 の医療機関で 200 人の感染者が発生した場合、その県の 1 医療機関当たりの感染者数は $200/100$ で「2」となります。

■ コロナ感染症の発生状況：横浜市 18 区の場合

第 19 週（5/8～5/14）は「2.10」でしたが、徐々に増加して

第 23 週（6/5～6/11）は「4.76」

第 24 週（6/12～6/18）は「5.83」

第 25 週（6/19～6/25）は「6.13」

第 26 週（6/26～7/2）は「5.84」

第 27 週（7/3～7/9）は「7.12」

第 28 週（7/10～7/16）は「7.72」

第 29 週（7/17～7/23）は「8.80」となり 5 月の第 19 週と比べ、4.2 倍に増加しています。

■ コロナ陽性者のワクチン接種回数と検査陽性率：

当院での 6 月 1 カ月間のコロナ陽性者の平均ワクチン接種回数は 1.4 回、平均年齢は 40.4 歳、検査陽性率は 45%、7 月の陽性者の平均接種回数は 2.4 回、平均年齢は 41.1 歳、検査陽性率は 61.1%でした。

■ どうしましょう：

ワクチン接種後も感染する方がいます。それはウイルスが頻繁に変異を繰り返し、免疫を逃れたためにワクチンの予防効果が減少したせいです。はしかや風疹と違い、コロナは終生免疫が得られないので何度でも感染します。それでもワクチンは重症化と後遺症を減らす効果が十分に期待できます。

現在、コロナウイルスはオミクロン株 XBB にほぼ置き換わっています。オミクロン株対応のワクチンを接種することが大切です。